

市政報告



7月28日非核・平和行進 松永から尾道まで行進しました。

9月定例議会の内容

2013（平成25）年度決算認定並びに副市長・監査委員などの選任、子育て支援新制度に関わる条例の制定、府中市いじめ防止対策推進協議会等設置条例の制定、及び一般会計補正予算などを審議しました。

補正予算の内容は、史跡保護のために開発公社が先行取得した金龍寺東遺跡を市が1億6千万円で買い上げる件でした。

また、病院機構の経営状況の報告もありましたが、2013（平成25）年度の決算は、1億6百万円の赤字でした。

議員発議の議案として、「介護保険制度改正と子ども・子育て支援新度に伴う予算措置を求める意見書」と「地方財政の充実・強化を求める意見

発行者：市民クラブ
小川 敏 男
水 田 豊
土 井 基 司
府中市出口町 1076-4
TEL 41-7894

書」などの提出について可決しました。

2013年度決算の審議

伊藤前市長の執行した最後の年度の予算ということ、前市長の市政運営への評価も含めて、決算の審議を行ないました。

まず、誤って国・県から入金された補助金2億5千万円が収支等に反映されているかどうか質したところ、収支に含まれるという回答でした。それを差し引きすると、今年度の「実質単年度収支」（前年度からの繰越を除いたその年度だけの収支）は赤字になります。合併以後、民主党政権による地方交付税増額によって黒字になった2010・2011年度以外はすべて赤字ということになります。

将来負担比率

また、開発公社などの借金も合わせた将来負担比率は、115.2%でしたが、平成24年度の全国平均60.0%からすると、相当悪い水準にあります。100%を超える市は、全国の市・区の中では

2割程度とごくわずかで、とても樂觀できる状況にはありません。その要因を尋ねたところ、「地方債と人件費の割合が高い。合併以後の積極的投資で借入残高が増えているが、合併特例債など有利な資金を活用して、市の負担が少なくなるよう努力している。」という回答でした。臨時財政対策債の全額と合併特例債の一部（127億円）を除外して計算された指数ですので、実態はもっと悪いということを自覚した財政運営が求められます。

地方債残高と交付税

理事者側が決算に関わって示した「各会計別地方債現在高と交付税措置分・市負担分の推移」という資料について、疑義があるため決算認定には反対しました（「視点」を参照してください）。

この資料は、借金の実態を市民に気付かせないようにするものであり、伊藤前市長が選挙に有利になるよう自分の財政の失敗を誤魔化すために作ったものであると考え、反対しました。

地方独立行政法人府中市病院機構決算

4億4千万円繰り入れられるも1億円の赤字決算

	府中総合病院(府中)	北市民病院(上下)	2病院合計	府中市の繰り入れ	独法の決算
平成23年度(独法前)	4億9,257万円	3億5,258万円	8億4,515万円	2億1,460万円	
平成24年度	1億5,457万円	2億9,213万円	4億4,670万円	4億9,000万円	4,330万円黒字
平成25年度	2億3,778万円	3億900万円	5億4,683万円	4億4,000万円	1億678万円赤字
平成26年度(予算)	?	?	?	3億4,000万円	?

府中病院建替費用	44億7,500万円
社会資本整備総合交付金	10億5,000万円
地域医療再生基金	7億5,000万円
府中市の借金	26億7,500万円
内訳 起債	20億6,200万円
一般財源	6億1,300万円

新病院建設費用返済予定	
平成25年度	1億2,100万円
平成26年度	10億7,000万円
平成27年度	29億2,700万円
平成28年度	3億5,700万円

9月議会に発足2年目の地方独立行政法人府中市病院機構(以下府中市病院機構という)の決算報告書が出されました。2年目の決算は、5億4千万円の赤字で市の繰入金4億4千万を入れてなお1億円の赤字となっています。

経営健全化の

具体的計画なし

府中市は医師不足と赤字解消を理由に旧JAF府中総合病院と府中北市民病院を強引に

経営統合
しました。
しかし2

年たった今も、どちらの課題も解決の見通しはたつていません。

それなのに北市民病院の縮小と新病院の建設だけは着々と進んでいます。

自立可能な病院建設を

病院を建替えるなど言っているではありません。新病院がきちんと経営できるかどうかの計画が立てられ、市民に公表され、議論がされていないままで建替計画だけが進んでいることが問題なのです。

旧JAF府中総合病院は単

年度で5億円
の赤字をだす
病院になって
いました。

その病院を同じ規模、同じ診療科目で建替えば、建替え当初は良くても持続可能な病院

府中市が立てた中期目標

第4 財務内容の改善に関する事項

自立した経営基盤を確立し、中期目標の最終年度には、経常収支比率100パーセント以上を達成すること。

病院経営における経常収支比率

$$\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100 (\%)$$

※ 経常収支比率は、府中市からの繰入金を参入後の数値である。

として存続が難しいのではないかと疑問は誰でも持ちます。

残念ながらそうした疑問に答える具体的プログラムは議会にも、市民にもどこにも示されていません。

黒字化に言及せず

府中市病院機構の発足にあたっては、府中市が中期目標を立て、その目標に沿って府中市病院機構が中期計画を立てます。

黒字化に関しては、目標も計画も抽象的な文言に終始しています。いわば黒字化を宣言しているだけです。

府中市病院機構の経営などを審査する評価委員会でも黒字化達成計画が必要だと指摘をしています。

9月議会の中で市は黒字化の達成は市の財政支援をしたあとの数字だと答弁しました。赤字を上回る財政支援を行えば黒字にはなるでしょう。しかしそれでは黒字化を達成したことにはなりません。

4億円の財政支援しながら「経営は独法がやる」では通らない

病院経営に4億円4千万円もの財政支援をおこなっている府中市が、「経営は独法がやる(ので市は関与しない)」という答弁で済ませているのが現状です。

府中市は黒字化への具体的方策を立て、法人、医師会などの専門家、地域住民を交えた議論をいまずすべくスタートさせるべきです。

このままでは病院経営は府中市財政の足を引っ張り、桜ヶ丘団地の「の舞を踏むこと」になるでしょう。

2013年度決算が9月議会に報告されました。前年度は収支が赤字となり、病院建替えに黄色信号がともりましたが、2013年度は黒字決算となっています。ところが上下水道料など公共料金の引き上げ、保育所運営費の削減、保育所や公民館の統廃合と職員を削減する7億円ダイエットプランが3月議会に出されました。黒字決算なのになぜ市民に負担を強いるのでしょうか。決算結果から検証してみます。〈説明〉表の中の財政力指数は1.0に近いほど財政が豊かということであり、経常収支比率は100%に近いほど財政が硬直していることを示します。

決算の評価は市民の声にあり

問題は家庭という借金
の地方債残高です。地方
債残高は普通会計と特別
会計、開発公社、桜が丘
団地販売で合計395億円
です。前年度の2012年
度になります。府中市は

府中市の決算状況		2014年9月		
年度	1989(元)	2001(13)	2012(24)	2013(25)
地方債残高	1,129,668	3,082,033	4,112,492	3,952,926
(うち普通会計)	765,609	1,468,080	2,521,539	2,440,528
財政力指数	0.76	0.58	0.48	0.48
経常収支比率%	78.0	88.3	94.4	96.1

*1989、2001年度は旧府中市単独、2001の地方債は下水道、桜が丘で一気に増える

類似団体（人口5万人以下で産業構造が府中市と似ている市）63市中では地方債残高は悪い方から6番目となっています。

また、町内会長のみなさんは「伊藤市長は国からお金を持つて帰って大きなことはするが町内会の要望は何もしてくれない」、高齢者のみなさんは「福山市はインフルヘンザの補助が2000円なのに府中市は半額の1000円」と怒っています。消防団員の年額報酬は9千円ですが隣の福山市は2万8500円で3分の1以下です。結局、地方債（借金）が財政を圧迫し、余裕がないため要望に答えられず、住民サービスが他市と比べて悪くなっています。身の丈以上の借金をしてきたことがわかりました。

借金も財産？

「家庭では借金があっても年々賃金は上がり、無理なく返せた。借金も財

産のうちよ」と言われるでしょう。それはバブル景気以前の残業代が大きな収入だった頃のことです。いまや賃金は下がり、それにともなう肝心な市民税が減少し、国からの仕送りと言われている地方交付税も上下町との合併による優遇措置が終わり7億円減少することになっています。

桜が丘と同じ結果

桜ヶ丘団地の第1次の販売計画は357区画の販売目標で9年間の結果は68区画（19%）、1年間で約7区画の販売でした。残り289区画が第2次販売計画です。現在までの4年間で73区画（25%）、1年間で平均18区画の販売です。第1次販売より2.6倍の販売ですが289区画と販売数が多くて、売っても売っても終わりが見えないというところ。地方債残高も前年度より16億円の減少となっていますが桜ヶ丘団地販売と同じく返しても返しても終わりがみえないと

いうことです。

市税と地方交付税が減少するため、地方債の返済と、新たな病院建替え財源確保のため市民に負担を強いる7億円ダイエットプランがつけられたと思います。

府中市の税収				
(バブル期)				
年度	1989(元)	2001(13)	2012(24)	2013(25)
市税	54億3415	51億9599	53億2882	52億0513
内訳*個人市民税	18億8269	14億3105	16億3609	16億0157
*法人市民税	12億4747	4億6738	4億8612	4億2644
*固定資産税	16億9207	24億9533	24億2924	23億7912

*1989、2001年度は合併していないので旧府中市単独の税収です。

□上下高校存続に向け活発な活動

学校活性化策を模索している上下高校が積極的な活動をおこなっています。夏休みに「高校入試問題勉強会」を開催、高校入試問題の解説を行い受験生に対する受験指導をおこないました。好評につき冬休みにも実施を予定しています。

また来年から制服の「デザイン」もかえ、入学希望生徒にアピールし、上下高校のキャ

ラクター「あやめちゃん」を冠した純米酒の製造・販売も考えています。

生徒たちも、上下高校野球部が単独で県大会に出場する、上下町内の一斉清掃に生徒が参加、9月28日には昨年ひきつづいて第2回の運動会を開催するなどががんばっています。

現在、上下高校は3学年それぞれ1学級ずつの学校であ

り、県教育委員会の再編対象校となっています。

上下高校の存続は今後3年間の活動が特に大事になっています。上下高校の取り組みに注目し、住民として連携していきましょう。



あやめちゃん

□金龍寺東遺跡の賃貸料を 史跡整備のために活用を

金龍寺東遺跡は、備後国府跡の一部と推定され、一部が府中市史跡に指定されています。場所は、元町のハローズの北側駐車場一帯です。史跡保護のために開発公社が先行取得していましたが、史跡の整備・活用を実施するまでの間、ハローズの駐車場として賃貸している土地です。

今回、開発公社の経営健全

化のために、市が1億6千万円で買い上げることになりました。当分の間賃貸を続け、年間約150万円の収入が見込まれます。

将来的に備後国府の史跡整備を行う際の基金にすると、史跡の維持管理費に充てるとかの活用を図るよう要望したところ、検討したいという回答でした。

の姿である。

交付税で返ってくるという120億円は実際には約60%弱の70億円で残り50億円は市の税金で借金返済しなければならぬのである。この事実

視点

市民からの声

を与党議員は分からず交付税で返っていると信じ込んでいる。全く能天気である。交付税で戻らない50億円の借金返済の財源をかき集めるため市独自の政策や市民サービスが削減

されているのである。市民を欺くことは許せない。

合併特例債等は交付税を算定する基準財政需要額に算入されるが、これが全額交付されるものではないことを与党議員が全く知らないことが問題なのである。

伊藤市政は田に映る「10モノづくり」に集中した12年間だった。それが今日の市の財政を危機に陥れている最大の要因となっている。議員は自分の責務を肝に銘じて仕事をすべきである。

超高齢社会、人口減、産業

の衰退、市内全域過疎地域指定、これが府中の現状である。この課題に緊急な手立てが必要だ。そのために議会は存在する。出来ることから府中独自の施策を講じなければならぬがそのためには原資が枯渇して有効な手が打てない状況が続いている。

市民に正しい情報を提供し、間違った市長答弁や市広報は速やかに訂正し謝罪するべきである。そこから府中市の再生は始まる。せめて新人議員だけでも市民の期待を裏切らないでほしい。

決算認定を求めた9月議会には市長と新人議員には初の決算議会であり新市長と新人議員に市民は注目していた。それは市民に正直に市の財政の実情を示すチャンスでもあった。結果は残念の一言だ。

市の台所が火の車であることは多くの市民が承知している。しかしその実態に議会のチエックは届かなかつた。議会は事実を明らかにしないまま決算を今年も承認した。この行為が市政にいかにも重大な影響を及ぼしているか理事者も議会も真摯に反省しなければ